16　景観を活用し10年続けた大イベント（宮崎県高鍋町）

緑肥としての利用を目的に始めたひまわりの植栽が、地域を代表するイベントに発展。
地域の協議会が主体となり、関係機関が一体となって10年間イベントを継続。

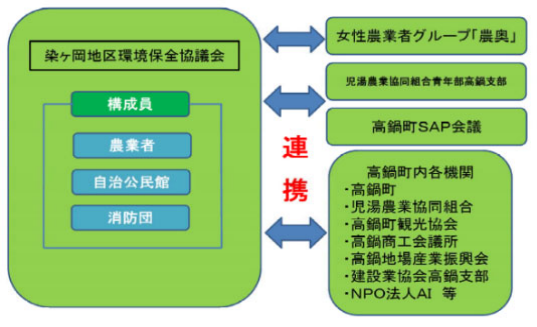
地区の特徴

- 染ヶ岡地区は、露地野菜や茶、ブロイラー、養豚業等が盛んな地区。
- 口蹄疫をきっかけに始まったひまわりの畑へ植栽を契機に、「きゃべつ畑のひまわり祭り」と名付けられたイベントが地域の協議会の主催で開催され、多くの観光客が来訪。
- このようなむらづくりの取組が評価され、H2年6に農林水産祭むらづくり部門において　「内閣総理大臣賞」を受賞。

きゃべつ畑のひまわり祭り（出典：高鍋町観光協会HP）

取組の内容

- H22年に家畜伝染病「口蹄疫」が発生し、野菜の元肥として施用していた牛ふんから作る堆肥が不足し、また活気をなくした人々を元気付けるため、緑肥として使用でき、景観の向上にも寄与するひまわりの植栽を発案し、植栽を開始。
- その後、ひまわりの植栽は年々増加し、「きゃべつ畑のひまわり祭り」と銘打ったイベントが地域の協議会主催で開催されることになった。
- ひまわり祭りは、協議会主催のもと、農協・観光協会・商工会議所等による協力体制を構築し、町内が一体となって祭りの運営に取り組んでいる。
- 約20の店舗が出店し高鍋町の特産物の販売が行われるほか、子どもたちに人気の「ひまわり迷路」を作成したり、眺めが良い高台を設置している。
- 38ha、約500万本からスタートしたひまわりの植栽は、H26年には80ha、1,100万本と日本最大規模を誇るまでに成長し、祭りの参加者は1.4万人を超える規模にまで発展した。祭り当日以外の見物客を含めると約３万人が来訪。
- 新聞、テレビ等のマスコミにも度々取り上げられ、口蹄疫の克服をきっかけとした、農業生産を維持するための活動が、町を代表する夏のイベントとなった（10年目の節目を迎えたR1年が最後の開催）。



取組の推進体制（出典：H26農林水産祭受賞資料）

ひまわり迷路（出典：H26農林水産祭受賞資料）
ひまわり祭りパンフレット（R1：最後の開催）（出典：高鍋商工会議所ブログ）

農業農村整備事業との関係

【特殊農地保全整備事業「お染ヶ岡地区」（S48～S58）、国営かんがい排水事業「尾鈴地区」（H8～H25）】
・畑地整備により、農業基盤が構築され、地域の良好な農村景観の保全に貢献。

取組主体

〇染ヶ岡地区環境保全協議会
（高鍋町、観光協会等の協力を得て実施）